

平成24年度
インターネットサービス基本計画

日本放送協会

平成24年2月

目次

はじめに	3
サービス実施の基本方針と重点目標	4
各サービスの編集方針	
第1部 放送法第20条第2項第2号に 関する業務の基準に基づくサービス	7
1. 安全・安心情報の充実	8
2. 地域発展につながる情報発信・世界への発信の充実	9
3. 放送通信連携サービスの充実	11
4. 新しい公共情報空間の構築	14
第2部 緊急情報や外国人向け情報など、放送法第20条第2項第2 号に関する業務の基準に基づくもの以外のサービス	16

はじめに

この基本計画は、NHKが受信料を財源として実施する、平成24年度のインターネットサービスの内容を示すものです。

サービス実施の基本方針と重点目標

昨年3月11日以降、日本の社会は激変しました。

大地震と未曾有の津波被害、それに原発事故に伴う放射性物質の拡散などによって、被災地では地域社会や産業基盤が崩壊し、生活が根底から覆される状況に直面しています。人々が心からの笑顔で安心して生活できるようになるまでには、まだ長い道のりが予想されています。

インターネットの世界に目を転じると、地震発生直後から国内外の多くの人々が情報を求め、つながりを求めて、あるいは自らの状況を発信しようとネットにアクセスしました。ツイッターやフェイスブックといったソーシャルネットワークサービスは、既存メディアのホームページなどと並んで、情報の共有と人々の結びつきに大きな役割を果たしました。インターネットの持つ「人の思いをつなげて、広げる」力を世界の多くの人々が、改めてはっきりと認識した瞬間でした。

NHKはこれまでも、災害時の情報提供はもちろん、人と人とのつながりを担う「公共的な情報空間」を作り出すインターネットサービスを提供し、進めてきました。東日本大震災では、正確で迅速な情報の発信をはじめ、報道特別番組の同時配信や外部検索ポータルサイトと連携した安否情報提供に取り組みました。過去にないほどの多くの人々が、NHKオンラインや携帯電話向けサイト（以下、「携帯サイト」）にアクセスし、「確かな情報の提供」と「人と人のつながり」という公共メディアとしての役割を一定程度果たすことができました。

平成24年度のNHKのインターネットサービス基本計画は、3か年経営計画の初年度として、大きく変化するメディア環境のなかで、さまざまな端末から多種多様な質の高いコンテンツを届け、「豊かで安心できる社会」、「たしかな未来の実現」に貢献するインターネットサービスを目指します。「NHK on 3 Screens」の考え方を踏まえ、「安全・安心」にかかわる情報の提供やサービスを支える基盤の整備に重点的に取り組み、放送と連携したインターネットサービスや地域や社会に活力を与えるコンテンツの充実に取り組みます。また、みなさまに支えられる公共放送として、「NHKネットクラブ」などを活用した人と人との絆をつなぐ仕組みもさらに強化していきます。

NHKは、効率的な制作体制でインターネットの分野でも選択と集中を推進し、「人の思いをつなげる」公共情報空間の基盤づくりに一層努力を重ねます。

24年度は、4つのサービスの重点目標を掲げます。

1. 安全・安心情報の充実

公共メディアへの信頼にこたえ、いつでもどこからでも、くらしの安全・安心にかかわるきめの細かい情報を、多様な伝送路とさまざまな端末から取得できるサービスを充実し、復興に向けた取り組みなども積極的に紹介します。

2. 地域発展につながる情報発信・世界への発信の充実

地域の活性化に貢献するインターネットサービスの開発に努め、「人の思いをつなげる」取り組みを進めます。同時に国際発信力をさらに高め、海外とのつながりを深めていくコンテンツを充実させます。

3. 放送通信連携サービスの充実

ソーシャルネットワークサービスなどを活用し、通信の特性を生かしたニュースへの新しいアプローチや従来とは違った番組の楽しみ方・参加の方法を開発し、放送と通信の融合時代にふさわしいデジタルコンテンツを充実します。

4. 新しい公共情報空間の構築

急速に普及するスマートフォンやタブレット型端末へのサービスの強化に努める一方、ネットテレビなど新しく登場しつつあるデバイスを活用したコンテンツの研究や技術基盤の開発を進めます。インターネットを使った人にやさしいサービスのほか、ともに学び考え、ともに語り合い、協力して作品を制作できる公共情報空間づくりに力を入れます。

インターネットサービスを実施するにあたり、NHKは以下のルールにのっとり行います。

1. 法令および各種規定の順守

サービスの実施にあたっては、法令を順守するとともに、「国内番組基準」、「国際番組基準」、「NHK放送ガイドライン」等の各種規定に準拠します。

2. 放送番組との関連性の明示

「放送法第20条第2項第2号の業務の基準」に基づいたサービスを提供するサイトでは、当該コンテンツが根拠とする放送番組を明示します。

3. サービスの確保と向上のための不断の取り組み

インターネットの利用環境が絶え間なく変化し、それに伴って変化しつづける利用者の要望にこたえ、安定したサービスをいつでも提供できるように、設備など必要な基盤の整備を引き続き進めます。また、サービスの技術的な品質は国民の大部分が利用可能であることを目安に向上に努めます。

4. コスト管理の徹底と実施経費の公表

インターネットサービスの実施にあたっては、絶えず業務の改善に努め、経費を適正に把握し、コスト管理を徹底します。また、実施経費については、年度終了後に実績値を公表し、透明性の確保に努めます。

第1部

放送法第20条第2項第2号の

業務の基準に基づくサービス

1. 安全・安心情報の充実

【編集のポイント】

○公共放送への信頼にこたえ、いつでもどこからでも安全・安心情報を得られるように、多様な伝送路と端末で情報を提供します

河川水位や雨量、自治体から送られる避難関連情報などの防災情報をデータ放送のほか、PCやスマートフォン、携帯サイトに自動的に表示する仕組みを順次整備し、各放送局が地域の人たちに向けて提供する情報を充実させます。

さらに、大規模な災害が起きた際に伝える生活情報放送と並行して、PCや携帯サイト等を通じて生活の再建のためのきめの細かい情報を被災地域に届けます。

○震災の記憶をアーカイブ化して伝えるコンテンツの制作、地域の防災情報、復興に向けた取り組み等を紹介・支援するコンテンツを強化します

(主なコンテンツ、サービス)

「東日本大震災アーカイブス」

被災された方の証言映像などを被災された場所とともに記録し、震災を長く記憶し、今後の防災や復興に役立つコンテンツとします。

「明日へ 一支援あおうー」

被災地復興を願い、支援を行うため、NHKの震災関連番組やイベント情報、役立つ防災情報を掲載するサイトを充実させていきます。

「証言『あの日あの時』」(盛岡局)

復興に向けた取り組みを地域局として密着取材、さまざまな被災者の証言を紹介し、支援します。

「放射線関連番組ページ(仮)」(福島局)

放射能の測定値の表示のほか、“除染の知恵”などを紹介し、地域の復興に役立つ生活情報を発信していきます。

2. 地域発展につながる情報発信・世界への発信の充実

【編集のポイント】

○地域の活性化や発展につながる地域局独自コンテンツへの取り組みを進めていきます

地域局独自のコンテンツの発信に組み込み、各局の携帯電話やスマートフォン向けサイトを刷新、利用者の利便性を向上させます。

(主なコンテンツ、サービス)

「各地のニュース」

各地域局のニュース動画を各局のPCサイトに掲載するための設備を24年度中に整備していきます。また、各局の携帯サイトにも、「各地のニュース」を掲載し、「安全・安心」情報の充実とともに地域向けの情報発信を充実させていきます。

「大河ドラマ『平清盛』ご当地サイト」(神戸局・広島局・高松局など)
瀬戸内海を舞台に活躍した平清盛の地元ならではの情報を発信することで、地域発展につなげていきます。

「見つめる。伝える。復帰40年～あの日・いま・これから～」(沖縄局)
「10年後の沖縄」をテーマにしたイメージソングを紹介します。沖縄戦の資料や戦跡紹介など沖縄戦の記憶を若い世代に引き継ぐコンテンツも作成、沖縄の過去・現在・未来を考えるページを構築します。

「茨城の四季」(水戸局)、「阿波おどり情報局」(徳島局)
地元の祭りや観光名所などを放送と連動して紹介し、地域の発展につなげていくページ作成を目指します。

そのほか、新たに始まる県域放送と連動したサイト(前橋局・宇都宮局)や、ご当地Jリーグ応援サイト(首都圏放送センター・甲府局)など

○国際発信力をさらに高め、海外とのつながりを深めていくコンテンツを充実します

(主なコンテンツ、サービス)

「cool japan 発掘! かわいいニッポン」

「かわいいニッポン」の文化を内外に紹介する番組。平成24年度はソーシャルネットワークを活用し海外に向けて「かわいいニッポン」を英語で紹介、同時に海外からの情報収集を幅広く行い双方向の情報伝達を進めていきます。

「Japan beyond 3.11」

東日本大震災を乗り越えて復興していく日本の姿を英語で世界に伝えていくコンテンツを充実していきます。

そのほか、「ワールドWave」「プロジェクトWISDOM」など。

3. 放送通信連携サービスの充実

【編集のポイント】

〇ニュースやさまざまな番組と連携し、通信の特性を生かした放送通信融合時代にふさわしいインターネットサービスを提供します

即時性・同報性に優れた放送と、双方向性に優れた通信の両方の長所を生かした総合的なインターネットサービスを提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

「NEWS WEB 24」

ソーシャルネットワークなどを活用し、インターネット時代のニュース番組とネットユーザーを結びつけ、新しいニュースの見方を提案します。

「NHKネットラジオ『らじる★らじる』」を活用したサービス
インターネットでのラジオの同時送信を行う、NHKネットラジオ「らじる★らじる」をより多くの人に届けるとともに、「デジタル基礎英語」や若者向け娯楽番組「w k t k ラヂオ学園」などで、学習したり、ラジオを聞きながら学んだり楽しんだりすることができるインターネットコンテンツの開発を行います。

「Rの法則」

放送中に実施するホームページのアンケートで、全国の中学高校生の流行や悩み事を即座に集計。興味の傾向や解決策を探りながら、若者が知りたい情報を伝えていきます。

「特盛り！テストの花道」

生放送中に問題を出題し、PCサイトや携帯サイトから寄せられた回答を放送で紹介していきながら、サイトでも解説を加え、“考えるチカラ”を養っていくコンテンツを開発します。

「写ねーる」

番組で募集するテーマに対して、携帯電話やスマートフォンなどで撮影した「写真」に「つぶやき」を添えて投稿してもらい、何気ない日常の“知恵（こだわり）”を番組やサイト上で共有するサービスを提供します。

「アニメマイル」「ドラマイル」
データ放送コンテンツとして定着してきた“アニメマイル”に加えて、「NHKネットクラブ」とも一部連携し“ドラマイル”を提供、放送をより楽しんでいただけるよう努めます。

そのほか、「NHK紅白歌合戦」「あさイチ」「情報LIVE ただいま!」
「ためしてガッテン」「Shibuya Deep A」「青山ワンセグ開発」など。

〇スポーツをより楽しめるコンテンツを開発し、提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

『『ロンドンオリンピック』サイト』
オリンピック公式オンラインデータを利用した競技の情報や競技結果を充実させ、また豊富な競技動画を提供するなど、インターネットの力をフルに生かして、オリンピックの感動を伝えていきます。

「スポーツオンライン」
スポーツ番組への興味やスポーツの感動をより一層味わえるサイトへのリニューアルを行います。同時にスマートフォンや携帯電話向けのコンテンツも充実させます。

「ラン×スマ ～街の風になれ～」
携帯電話やスマートフォン向けのコンテンツを提供して、ランニングをより楽しむためのサイト開発を行います。また、利用者からの情報提供などを通して、番組と利用者が一体となったサービス展開を目指します。

〇学習の新しい形を追求します

教育テレビ(Eテレ)の番組と連動し、学校向けのコンテンツ「NHK for School」の充実を進めるほか、視聴者の「知りたい」「学びたい」という意欲・ニーズにこたえます。

(主なコンテンツ、サービス)

「スマイル!」
特別支援教育向けの番組「スマイル!」と連携し、特別支援教育に役立つ

ような視覚トレーニングや聴覚トレーニングなどに活用できる電子黒板教材を開発し、インターネット上で展開していきます。

そのほか、中学校社会科向け電子黒板教材の新規コンテンツや、メディアリテラシー番組「メディアのめ」と連携したコンテンツ作成など、教育向けインターネットコンテンツの充実に取り組みます。

〇見ごたえのある動画の提供に積極的に取り組みます

(主なコンテンツ、サービス)

「どーがステーション」

「ワンセグ独自番組」や「広報動画」のなかから、5分程度の見ごたえのある「楽しめる動画」を選び、まとめて提供します。外部の動画提供サービスやソーシャルネットワークとの連携も試みながら、NHKのさまざまな番組の紹介をインターネットユーザーのニーズに合わせた形で積極的に進めます。

4. 新しい公共情報空間の構築

【編集のポイント】

○スマートフォンやタブレット端末などに向けたサービスの強化、ネットテレビなど開発の進みつつあるデバイスに対応するコンテンツや技術基盤の研究・開発などを行います

(主なコンテンツ、サービス)

「スマートフォン向けサイトの充実」

スマートフォンの画面に最適化した番組サイトを順次作成し、利用者の利便性向上に努めます。また、各地域局のトップページについても、スマートフォンに対応していきます。

「メディア連携・融合コンテンツの開発」

TV放送と、タブレット端末などを組み合わせて視聴する新しいサービス向けのコンテンツを研究します。

○人にやさしいサービスを拡充するとともに、ソーシャルネットワークを活用して新しい公共情報空間を構築します

(主なコンテンツ、サービス)

「『やさしい日本語』ニュース」

ニュース原稿の内容を子どもや日本語にまだ慣れていない外国人にもわかるような平易な文章に変換・提供するシステムを構築し、インターネット上の公共情報空間を豊かにしていきます。

「東北発！未来塾」

東北の復興・地域再建を担う若者たちが集い、ともに考え学びあう場をインターネット上で提供します。

「ハートネットTV」

ソーシャルネットワークを利用した福祉関連情報の発信・共有や利用者への取材などを通してインターネット上の新しい福祉情報空間を作ります。

「SABUちゃんとバーチャルセッション」(札幌局)
歌手がアカペラで歌う動画に合わせてユーザーが演奏を投稿。歌と演奏をミックスして新しい動画を作成したり、投稿者どうしが動画をコラボレーションしたりして楽しむ、創作のための情報空間を提供します。

[コンテンツ・サービスレベル]

NHKのインターネットサービスで提供するコンテンツやサービスのレベルは、利用者の大部分が使用している環境で、円滑に利用できる水準を確保します。

第2部

緊急情報や外国人向け情報など、
放送法第20条第2項第2号に
関する業務の基準に基づくもの
以外のサービス

編集方針

NHKが番組制作、番組の周知・宣伝、経営広報、営業活動、職員採用等の業務に関連してインターネットサービスを行う場合は、それぞれの業務を効果的に実施するなどの目的に合ったコンテンツを制作・提供します。

番組制作やイベントでは、インターネットを活用して視聴者が参加する双方向の取り組みを一層進めます。また、「NHKネットクラブ」を通じて視聴者とのつながりを深める仕組みもさらに強化していきます。

番組の周知・宣伝については、番組の放送より前に行うことを基本とし、全体として放送番組の視聴につなげることを目的とします。平成24年度はテレビ放送開始60年にあたるため、過去の番組についてのポータルサイトを制作し、公共放送の歴史を振り返ります。また、オリンピックロンドン大会等でも、効果的な周知宣伝により、衛星放送の視聴拡大など、放送の発展を図ります。営業活動と連動するコンテンツについては、営業活動の目的に照らして妥当な範囲・態様によってサービスを実施します。

東日本大震災を踏まえ、災害・危機管理情報その他の緊急情報など、国民の生命、財産にかかわる情報については、公共放送の使命にこたえるよう、情報発信の仕組みを一層強化し、積極的に実施していきます。選挙の情報についても、公平中立な立場から迅速で的確な情報を提供していきます。

国際放送についても一層の強化を図ります。NHKワールドTVおよびNHKワールド・ラジオ日本は、それぞれライブストリーミングを強化し、英語をはじめ18の言語での、いち早いニュースの発信に努めます。

昨年度、試行を開始したインターネットラジオについては、さらに安定した放送を広く聴取者に届けるよう努めます。

[サービスレベル]

○ 利用者の大部分が使用している環境で、円滑に利用できる水準を確保します。